

平成21年度京都市交通事業決算概要

第1 自動車運送事業

経 常 収 入	213億28百万円
経 常 支 出	194億89百万円
経 常 損 益	18億39百万円
△ 累 積 欠 損 金	△87億52百万円
△ 累 積 資 金 不 足	△85億85百万円

<主な業務量等>

年度末在籍車両数	760両 (760両)
走行キロ数 〔1日平均〕	80.3千km (80.3千km)
旅客数 〔1日平均〕	311千人 (316千人)
職 員 数	773人 (808人)

注 () 内は、平成20年度の数値である。

1 決算のポイント

平成21年度決算は、平成20年秋からの世界同時不況による景気低迷や新型インフルエンザの流行による出控えなどの影響を受け、旅客数が減少したものの、経営健全化の取組を着実に推進し、人件費や経費の削減に努めたことや軽油が低価格で推移したことなどにより、経常損益は平成15年度から7年連続となる黒字(18億39百万円)を確保できた。

2 主要事項

(1) 経営健全化計画の策定

一般会計からの補助金に頼らない自立した経営を目指し、「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づく新たな経営健全化計画を策定

(2) コスト削減策

ア 総人件費の削減

自動車整備業務の民間委託化の拡充等による職員数削減、給料カットなど

イ バス車両購入費の削減

更新年数を14年から18年へ延伸し、個々の車両状態を徹底的に点検精査のうえ、更新車両数を2両に抑制

(3) 収入増加策

ア 増客に向けた系統・ダイヤの編成

(ア) 河原町通における増便及び等間隔運行の実施

(イ) 洛西地域のダイヤ調整による鉄道との乗継時間の短縮

(ウ) 観光シーズンにおける臨時便の増発や週末夜間の輸送力の増強

イ 定時性の向上

府市協調により、公共車両優先システム(PTPS)が、新たに北大路バスターミナル～京都市役所前間に設置拡大され、走行環境改善を推進

ウ バス待ち環境の向上

新たに民間活力を導入した広告付きバス停留所を整備

3 財政状況

年 度 項 目		前年度決算比較（消費税抜額）						
		20年度決算		21年度決算		増 △ 減		
		億 百万円		億 百万円		億 百万円		
経 常	営業収益	190	39	186	74	△ 3	65	
	運送収益	179	08	175	21	△ 3	87	
	その他	11	31	11	53		22	
	営業外収益	32	17	26	54	△ 5	63	
	収入計	222	56	213	28	△ 9	28	
	損 益	営業費用	212	45	191	71	△ 20	74
		経常人件費	72	40	68	20	△ 4	20
退職手当		23	76	14	77	△ 8	99	
経費		94	58	88	25	△ 6	33	
減価償却費等		21	71	20	49	△ 1	22	
営業外費用		4	03	3	18		△ 85	
支出計	216	48	194	89	△ 21	59		
差 引		6	08	18	39		12 31	
特別損益		△ 62		10 84		11 46		
再差引（純損益）		5 46		29 23		23 77		
利益剰余金 （△累積欠損金）		△ 116 75		△ 87 52		29 23		
資 本 的 収 支	収 入	21	37	7	54	△ 13	83	
	支 出	42	44	30	34	△ 12	10	
	差 引	△ 21 07		△ 22 80		△ 1 73		
累積資金不足		△ 113 83		△ 85 85		27 98		

4 企業債の状況

年 度 項 目	20年度末 未償還残高	年 度 内 増 △ 減			21年度末 未償還残高
		発 行 額	償 還 額	差 引	
		億 百万円	億 百万円	億 百万円	億 百万円
建設企業債	111 50	7 15	23 19	△ 16 04	95 46

第2 高速鉄道事業

経常収入	262億14百万円
経常支出	379億25百万円
経常損益	△117億11百万円
現金収支 (償却前損益)	15億81百万円
△累積欠損金	△3,193億19百万円
△累積資金不足	△309億83百万円

<主な業務量等>

年度末在籍車両数	222両 [37編成] (222両 [37編成])
走行キロ数 〔1日平均〕	56.0千km (56.0千km)
旅客数 〔1日平均〕	327千人 (328千人)
職員数	564人 (585人)

注 () 内は、平成20年度の数値である。

1 決算のポイント

平成21年度決算は、世界同時不況による景気の低迷や新型インフルエンザの流行による出控えなどの影響により、旅客数が減少したものの、駅職員業務の一部民間委託化や高金利建設企業債の借換えなどコスト削減策を着実に推進したことなどに加え、平成20年度末に東西線第三セクター区間を直営化した効果もあって、経常損益は、平成20年度より27億5百万円改善し、117億11百万円の赤字となった。

また、現金収支は53億90百万円改善し、経営健全化の鍵である現金収支の黒字化（15億81百万円）を初めて実現した。

2 主要事項

(1) 経営健全化計画の策定

将来にわたって地下鉄事業を安定的に運営し続けることを目指し、「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づく新たな経営健全化計画を策定

(2) コスト削減策

- ア 駅職員業務の一部民間委託化の拡大（新たに4駅）による職員数削減、給料カットなど
- イ 利息負担の軽減を図るため、国制度を活用し高金利建設企業債を借換え

(3) 収入増加策

- ア 烏丸御池駅での最終列車の全方向一斉発車（シンデレラクロス）及び夜間ダイヤの増便・等間隔運行
- イ 各局区等との連携による地下鉄沿線でのイベントや案内の強化
- ウ オリジナルスイーツの開発・販売、ホーム階への飲料自動販売機の設置など駅ナカビジネスを拡大するとともに、賑わいのある公共空間を創出する四条駅のリニューアルに着手

(4) 安全で快適な地下鉄の運行

- ア ホーム階とコンコース階を遮断する防火戸等の設置（全駅設置完了）
- イ 法令に基づく車両安全対策の実施及び点字タイル、手すりの増設

3 財政状況

年 度 項 目		前年度決算比較（消費税抜額）		
		20年度決算	21年度決算	増 △ 減
		億:百万円	億:百万円	億:百万円
経 常 損 益	営業収益	231:97	230:77	△1:20
	運輸収益	218:16	216:01	△2:15
	その他	13:81	14:76	95
	営業外収益	28:04	31:37	3:33
	収入計	260:01	262:14	2:13
	営業費用	292:92	259:34	△33:58
	経常人件費	50:53	49:40	△1:13
	退職手当	9:76	9:55	△21
	経費	125:49	65:89	△59:60
	減価償却費等	107:14	134:50	27:36
営業外費用	111:25	119:91	8:66	
支出計	404:17	379:25	△24:92	
	差 引	△144:16	△117:11	27:05
	現金収支（償却前損益）	△38:09	15:81	53:90
特別損益		4	△33:16	△33:12
再差引（純損益）		△144:20	△150:27	△6:07
利益剰余金 （△累積欠損金）		△3,042:92	△3,193:19	△150:27
資 本 的 収 支	収 入	890:79	417:05	△473:74
	支 出	942:92	496:55	△446:37
	差 引	△52:13	△79:50	△27:37
△累積資金不足		△309:81	△309:83	△2

4 企業債等の状況

年 度 項 目	20年度末 未償還残高	年 度 内 増 △ 減			21年度末 未償還残高
		発行額	償還額	差 引	
		億:百万円	億:百万円	億:百万円	億:百万円
建設企業債	2,691:09	(212:70) 225:31	(212:70) 389:68	△164:37	2,526:72
出資債	32	0	0	0	32
特例債	156:15	13:90	18:66	△4:76	151:39
資本費平準化債	218:18	84:94	0	84:94	303:12
資本費負担緩和分企業債	830:66	61:59	16:43	45:16	875:82
小 計	3,896:40	385:74	424:77	△39:03	3,857:37
鉄道・運輸機構借入金	572:18	0	48:62	△48:62	523:56
長期借入金	453:09	0	6:23	△6:23	446:86
合 計	4,921:67	385:74	479:62	△93:88	4,827:79

（注）発行額及び償還額の上段〔 〕は、建設企業債借換分で内数である。